

塩釜焼ロースビーフの下ごしらえをする利用者と職員



Tukushi no chikara

社会福祉法人上州水土舎の歩み ～自主事業と自立生活支援の取り組み～

群馬県・社会福祉法人上州水土舎 理事長

金谷 透

はじめに

社会福祉法人上州水土舎は、群馬県の富岡市で水土舎（就労継続支援B型・就労移行）と富岡甘楽自立生活サポートセンター・ムゲン（生活介護）を、前橋市ではよろず屋寒春（就労継続支援B型・就労移行）を運営し、また前橋市に1ヵ所、富岡市に9ヵ所のグループホームを運営しています。

法人本部は富岡市内の静かな谷間に広がる里山にあり、沢筋の溜め池では、アオ

サギが餌をついばみ、田んぼにはカブトエビが群れ、関東タンポポが群生しています。

上州水土舎（以下、水土舎と略）は、地域社会の中で障がい者の居場所と社会参加の場を創出し、そこに彼らを自然に包摂する仕組みや人間の輪や共生社会を実現し、彼らの自立生活の先には施設解体も視野に入れています。

ハム・ソーセージ製造と販売

水土舎では小さな施設内工場で様々な食肉加工をしていますが、特に塩釜焼

フクシノチカラ

谷津の奥の田んぼ



ローストビーフは全工程が手作業で、塩や香辛料の加減が職人の勤便りになることから、多くの企業が敬遠するため、おそらく国内屈指の生産高だと思います。加工技術は、本場の味を学ぶため、私の知人がドイツ・ミュンヘンの工場で2年間修業し、帰国後にマイスター養成校の教師を同伴しました。彼と共に3カ月間にわたって日本人向けに風味を調整し、1989年に製造販売を開始しました。ミュンヘンの食肉加工専門商社から香辛料や資材等を直接仕入れ、「本場の味」を特徴に販路を広げ、そごう・西武、高島屋、大丸松坂屋、セブン-イレブン、リンベル(カタログギフト)、株式会社ワイヨット、日本生協(CO・OP)等々、大手百貨店・企業を主な顧客として販売してきました。

売り上げも順調に伸ばしていましたが、昨年4月大きな危機に見舞われることとなりました。食品表示法の改正です。従来の商品ラベルには、福祉事業所の名前ではなく、「販売者：(株)赤城屋」のブランド名を明記して販売していましたが、製造者欄に「社会福祉法人上州水土舎」と明記しなければならなくなりました。果たして知的障がい者の作る商品は、これまで通り市場で取り引きされるだろうか、私たちが長年続けてきた大手企業との通販事業はここで終わってしまうのではないかと不安になりましたが、腹をくくり、顧客の反応を待つことにしました。

企業との取り引き

当法人が行う自主事業の根底には、社会に対し甘えたりおもねることはせず、偏見無く正当な評価をしてもらうことこそが望ましい、という考えがあります。

私たちは「授産製品、悪かろう安かろう」という固定観念や巷説にくみせず、販売会社(株)赤城屋の下請けという形をと

ることで、福祉や障がいという文言とイメージを商品から一掃してきました。しかも、これは群馬県障害政策課の要請でもありました。大手企業との取り引きにはワンクッションを置いたほうがよい、問題が起きれば一社会福祉法人では抗し切れないだろう、その際は(株)赤城屋に任せろ、という「親心」だったようです。

ところが、大手企業との取り引きはその種の甘えの構造が入り込む余地は1ミリもなく、バイヤーたちは良いモノなら取り引きする、市場性や競争力のない粗悪品は問題外、という立場で終始一貫しています。何より、施設には何度も来ていますから「赤城屋」というブランド名のハム・ソーセージが、実は知的障がいのある人たちが製造している商品であることは百も承知です。大手企業との商談や工場監査なども、水土舎には応接室などありませんから、施設内の食堂を兼ねた多目的室で、障がい者のある人たちに囲まれて行われてきました。

商品や製造工場の衛生管理は徹底的に監査・監督され、通信販売の命である配送日時はネットで監視されています。一つのケアレスミスが信用を失うことにつながる命取りになる世界です。一つの商品の積み忘れが起これば、私たちは日本の隅々まで飛んで行きます。

お客様から風味の苦情が複数出れば直ちに販売はストップ、商品検査や製造や配送システムの監査が行われ、徹底した原因究明と再発防止策が練られます。同時期に同じ商品を他の大手企業が販売していたとしても容赦なしです。

障がい者の作る製品への企業の姿勢

法人設立から21年、大手企業のバイヤーや関係者が、障がいや福祉に言及したことは皆無です。美辞麗句を並べて、障



ハム・ソーセージ詰合せ10種

フタモノチカラ

ソーセージの燻煙作業





移動販売風景

フクシチカラ

Fukushi no chikara

水土舎のジャム



がいのある人たちの授産商品を礼賛する風潮は各所で見受けられますが、ここでは無関係です。商品流通経済の論理と倫理が貫徹している商品取り引きには、福祉施設側が社会に対して心の隅で考えてしまう甘えやおもねりは一切排除されています。

しかし、弱肉強食の市場原理が貫徹している世界であっても、厳しさの中にも無言のうちに障がい福祉への深い理解をずっと感じてきました。特に初期の西武百貨店との取り引きでは、商品経済と文化主義の共存と融合を目指した西武グループの故堤清二氏の精神が、バイヤーの一人ひとりに浸透していると強く感じました。「競争力と市場性を持つ商品なら私たちは偏見なく取り引きする」という凛とした姿勢は、言葉でなく皮膚感覚で伝わってきました。

私たちは、通常約1年前から大手企業に新商品を提案します。懸念していた食品表示法改定後、商品のラベルには「製造者：社会福祉法人上州水土舎」と印字することになりましたが、驚いたことに、大手企業側からは例年通りの企画提出の申し入れが続き採用が決まり、取り引きは継続されています。

私たちの無意識の負のバイアスが現状認識を曇らせていました。障がい者への偏見や障がい者の作った商品への「安かろう、悪かろう」といった偏見は、プロの純粹客観評価の前に崩れつつあることを知りました。

相模原障害者施設殺傷事件へのアンチテーゼが、大手の企業人により、障がい者側の甘えやおもねりの通用しない企業活動の中で別の形で提議されている、この企業人のマインドはそれを自然体で受け止めてくれる多くのお客様に支持されている、時代は変化しているのだと無言の

共感力と合理的配慮を感じています。

さまざまな自主事業

ハム班には15人ほどの利用者と数名の職員が従事していますが、自主事業はハム班だけではありません。有精卵養鶏1,500羽、稲作2,000㎡、10,000㎡のブルーベリー園（無農薬有機栽培認定）から収穫されるブルーベリーと地元農家から分けてもらういちじく、いちご、りんごでジャム製造。その他、お菓子製造、精肉、総菜、移動販売、日用品出前配送などを行っています。多種多様な仕事があるので、利用者の能力や適性に見合った適材適所の職種を提供できていると思います。

平飼有精卵は当地のスーパー、道の駅、市町村役場などで販売されていますが、おそらく日本一安い平飼有精卵（1個32～42円）ではないでしょうか。鶏のエサは、施設とグループホームの生ゴミや、地元企業の残飯などを熱処理後に発酵させて飼料化し、それを自家配合飼料と混ぜて作ります。鶏糞はすべて完熟堆肥としてブルーベリー園や田畑に還元します。従って、環境汚染物や産廃として廃棄される鶏糞はほぼゼロです。法人内の生ごみは3R（リデュース=ごみの発生を減らすこと、リユース=繰り返し使うこと、リサイクル=資源として再生利用すること）によりほぼ完全に有効利用されており、ゼロエミッションが実現しています。

今後は、周囲の荒れた耕作放棄地が多く散見される現状を踏まえ、独自の三圃制（耕作・休耕・家畜放牧）により、里山のSDGs的環境の再生をさらに一歩進めようと考えています。地元の豊かな人的資源にも大いに期待しています。

また、移動販売と受注宅配も行ってきました。買い物難民、社会的に孤立した老人等の安否確認などと組み合わせなが

ら、老人支援に一定の社会的役割を担ってきました。今後は利用者の特性や強みをさらに生かし、キメ細かに社会的役割を掘り起こしていこうと考えています。

自立にはお金が必要

もちろん自立にはお金が不可欠ですが、工賃の多寡より可処分所得(自分の意思で使えるお金)の多寡のほうが重要だと考えます。厚生労働省は工賃倍増計画や、企業就労即幸福論を喧伝していますが、「働けば自由になる」のスローガンを彷彿とさせます。就労先の職場が3K+孤立化の4Kであることは少なくなく、友人・知己の不在、就労先での偏見と差別、日々感じる不全感や自信の喪失、疎遠となる福祉的支援など、社会的孤立化が現実的に生じています。福祉分野にも優生思想の温床ともなる労働生産性神話の打破と、新たな社会思想の下に新たな労働観の創造が待たれます。

日本グループホーム学会の調査によるとグループホームでの1ヵ月の平均費用は95,000円強。私たちのグループホームとの差は4万円以上あります。私たちのグループホームでは障害基礎年金2級で、工賃ゼロでも貯金ができます。グループホームの入居者で金銭管理を当法人にまかせている約30名の方の平均年齢は39歳、平均貯蓄額は670万円超です。利用者は1ヵ月4,000円の定期積立を行い、親のお金に頼らず、2年に1回、4泊の旅に出かけます。これまで台湾、韓国への海外旅行、沖縄以外の日本各地を旅してきました。

当たり前の自立した生活

当法人のグループホーム入居者の中には子どものいらっしゃる方もいます。たまたま町で出会った知的障がいのある男性を就職支援したところ、彼は職場で知的障

ブルーベリーの摘果作業(年間収穫量1.2トン・120万粒)



ソーセージ燻煙前作業

がいのある女性と意気投合し、恋愛、結婚、出産となり、その子は現在小学2年生となりました。

水土舎には県内外から居場所のない支援困難者の利用希望が少なからずあります。DVで警察に逃げ込んだ知的障がいの女性を受け入れたときは、市の福祉課は迅速に対応してくれました。当たり前の自立生活を地域社会の中で実現し、できるだけ他人に迷惑をかけず、障がいのある人をインクルーシブな地域の共生社会に解放し、やがては施設を解体する。

今後も、水土舎はそういうパースペクティブの下に、現行の支援の組み立てを考えていきたいと思います。

【お問い合わせ先】
社会福祉法人上州水土舎
〒370-2304 群馬県富岡市後賀字滝の沢723-7
TEL0274-64-1254 FAX0274-89-1055

フタミレノチカラ

塩釜焼ローストビーフ

